



タイ奨学金里親プロジェクト

〒387-0011
千曲市杭瀬下1201-2-B201
TEL&FAX:026-272-7767
E-mail:creyes@valley.ne.jp
会報Vol.5 2006.6



プレゼントを受けて子供達は大喜び



第3回里親ツアーで子供達に会ってきました!

報告/寺澤 順子

1月26日から6日間「第3回里親ツアー」を開催しました。千曲市、上田市、長野市、高遠町、池田町、軽井沢町から里親計11名が参加しました。チェンマイ市52名、サンサーイルアン町30名、ドークカムターイ郡60名、計142名の奨学生の里親の子供達に会いに行ってきました。今回は学校訪問を中心に自分の担当の里子だけではなく、参加者一人ひとりが、里親の代わりにみんなと話をしたり、遊んだりする機会を持ちました。

<1日目>

今回は子供達の負担を減らすために大袈裟な出迎えを遠慮し、空港では副市長のケンさん夫妻がでむかえてくれました。チェンマイは気温が30度と、長野のマイナス10度から一気に真夏へ。市の中心部ナイトバザールの一角にあるロイヤルランナー

ホテルにチェックインして、ケン夫妻とみんなで夕食を共にしました。

<2日目>

午前中はチェンマイ市郊外のサンバトーンにあるHIV感染者のための女性職業開発センターと日本人の戦没者慰霊碑を視察(下記参照)。昼食は北タイ名物、カレーラーメンのレストランで激辛ラーメンを堪能しました。

午後はいよいよチェンマイ市役所訪問です。街の中心を流れる川とふんだんに飾られた花々、多様な民族の行き交う街は、まさに花の都です。チェンマイ市内11校の里子たち52名とその先生、学校の理事長(校長)が議場に集まってくれました。千曲市にも訪問した事のある議長と議員のみなさんと、教育委員会の担当者の立ち合いの元、各学校毎に分けた奨学金をチェンマイ市

長へを授与しました。

チェンマイ市長からは、長野県へ行った思い出とその絆の大切さ、そして3年

目を迎え、奨学金が確実に子供達が有効に利用できるようにきちんと管理したいとのコメントをいただきました。子供達全員にプレゼントを渡し、一人ひとりに両手で握手をしました。里親が子供達と話をしている間に、理事は副市長室で教育委員会の方と担当者会議を行い、今後の奨学金について再度確認をしました。その後、2校を訪問して、教室の中などを視察させていただきました。(左枠参照)

▲チェンマイ市長と副市長、議員に会いました。



学校訪問で いい出会いがありました!

チェンマイ市の
ワットムングン
コーン小学校で

は、放課後生徒の一人がタイの踊りを披露してくれました。理事長のブンソンさんはITの勉強中。自費で観光案内や学校紹介、奨学金授与式の様子を編集。わざわざ最終日の夕食会に、私たちの会迄届けてくれました。次回の報告会で披露します!



オリジナルDVDをいただきました。

キャンプファイヤーで有意義な交流を

<3日目> <4日目>

土日ということで、学校や役所がお休みのため、今回は思い切ってラオスやミャンマーとの国境まで足を伸ばしました。(下欄参照)

まずはチェンマイ市で最も有名なお寺、山の上のドイステーブをお参りし、山岳民族訪問、黄金の三角地帯へ向かい、川下りをしてからチェンラー

イ市内に宿泊しました。

4日目の朝、観光スポットを幾つか訪問してから、夕方ドークカムターイのホテルにチェックイン。

その後、タイラウィッタヤー46校の庭で、子供達と先生、保護者、地域の方々とキャンプファイヤーをやりました。郡長も参加。先生たちのアレンジで食べ物も保護者に手作りで用意していただき、里親は自分の子供達に会うことができました。また奨学生全員一人ひとりと手をしっかりと握りしめ、中にはほっぺにキスをしてくれたこもいました。「天使のような笑顔」というのはこのことを言うのでしょうか。

最後にはタイ語と日本語で「幸せなら手を叩こう」を熱唱し、輪になって踊りました。そして提灯(コムロイ)を皆の飛ばしました。みんなの友好の願いをたずさえて、柔らかい光が空高く昇ってゆく光景は、一生忘れられないものでした。

向かって左の女性が担当の先生。すごくいい人です。



■ 寮所で働くHIVの感染者。とても明るく生き生きしています。

感慨深い視察をました!

多くの日本人も眠る製鞋機



松本を拠点にしたNPO法人アクセス21の支援するサンバトーン地区の「作業所」を見学(左写真)。HIVで家族をなくしたり感染している女性達が、草木染めで日本の作務衣を制作、皆は端切れで作ったポーチを購入しました。寺を中心にコミュニティがエイズや女性に対する差別をなくし、自ら自立するよう支援している仕組みが勉強になりました。またインパール作戦の戦没者の慰霊碑も訪問しました。ラーフン族の村には小豚が走り回り、子供達ののんびりした姿が印象的でした。

ラーフン族の子供達も大人達も集まって来ました。

